



第19号

「PMFを応援する会」会報

# 協奏

2018年10月2日

## お先へ……PMF32回目へ？！ 緊急事項に追われた2年間

森 口 力 PMF創設時 野村国際文化財団勤務  
PMFを応援する会フェロー

光陰矢の如し！PMFは来年30回目の区切りを迎えます。まだ名称もない音楽祭の提案書に初めて接した88年末から数えると、私には32年目となる訳です。この2年間の隠れた時間こそPMF全関係者のコンセンサスが醸成された最重要期だったと今も確信しています。

88年末の某日へタイムスリップします…

突然面識のない関西弁の元気な男性と取引先でもない広告代理店の営業マンが勤務先のオフィスを訪れました。佐野光徳代表(当時 音楽事務所NASA)と小林敦さん(当時旧アサツ-営業局長)です。開口一番“困ってますねん”と方言丸出し。広島平和音楽祭以来レナード・バーンスタイン(以下L.B)の日本窓口です。L.Bの代理人ハリー・クラウトから「いま、北京で若手演奏家を育てる教育音楽祭の設立を準備中だが資金が足りない。ぜひ日本でスポンサーを捜してほしい。協力者にはL.B指揮で11回のLSO(ロンドン・シンフォニー・オーケ)冠コンサートを約束する」との魅力ある提案でした。その上2人から、某洋酒メーカーも乗り気なので結論は早急に！と急がされました。年末年始の休暇返上で実務者同志の厳しいツメと社内、特に社長と重要案件を審議するトップ会議用のレジュメ創りに奔走。年明け早々に説明を終え、幸いにもOKの指示が得られました。

速やかな結論の裏にはL.Bも会社も“人材育成”を共通のテーマにして巨大有望市場“中国”に各々の新拠点を確立したいという同一の意図があった、と思います。勿論、11回もの“冠演奏会”のインパクトも大きかった事は間違いありません。

連日、佐野、小林両氏と北京情報の交換と国内LSOコンサート準備に追われていた矢先の89年6月〈天安門事件〉が勃発。現地スタッフは散逸し連絡途絶。状況回復見込みゼロという野村北京オフィスとの交信を頼りにトップの決断もあり、L.Bの情熱と時間を全て日本で活かそうという新方針が決まり、一から出直しとなりました。

当時日本はバブル景気の頂点で消費は個性化し企業は社会貢献とりわけ文化活動による貢献(メセナ)が流行り、冠イベントが巷に氾濫し“文化の浪費”に浮か

れていた時期です。この流れに染まってはいけない、「冠」は社名でなく「人材育成」が冠となる音楽祭に仕上げよう、その為に ①活動の長期継続 ②世界一の教授陣構成、そして何より ③地元市民が愛し誇れる音楽文化の発信基地を目指し、成果を地元の繁栄と賑わいに繋ごう、と決意したのです。

開催地に突然白羽の矢が立った札幌市を中心に主催者(市)、芸術監督(L.B)、スポンサー(当初 主要4社)によるPMF運営の体系が整いました。

翌日から一年足らず、全身全霊の突貫準備を経て90年6月芸術の森に最初のファンファーレが鳴り響きました。感動の瞬間でした。(注：PMF10周年記念誌・座談会を参照)

以降今日まで関係者の尽力でPMFは充実の道を辿っています。残るテーマは市民が誇りとするPMFの実現ですが、これには私たち〈応援する会〉の役割が欠かせません。通年活動や世界交流、3400人の参加音楽家との連携など実現したい課題は山積みです。30回目を機にぜひ一歩踏み出しましょう。

ガンバレ〈応援する会〉、がんばれ〈札幌〉！



注：PMF10周年記念誌(1999年11月1日、PMF組織委員会発行)

記念誌に掲載の「座談会」をお読みにになりたい方は『PMFを応援する会』への募金の際に同封の郵便払込取扱票、通信欄に住所、氏名に加えてコピー希望とお書きください。



# 平成29年度募金報告



2017年4月1日～2018年3月31日

募金ありがとうございました。今後ともよろしくお願ひします。

## 募金者名

2017年4月1日～2018年3月31日

敬称略、50音順

赤石尚一	赤石知恵子	秋野治郎	阿部千秋	安藤佳枝	井浦功雄	池津真理	石井安子
石橋喜重子	伊藤敬子	伊藤光湖	上田文雄	上松瑛	氏家公子	奥村道子	大谷慎一
大谷洋子	大橋亜樹子	大平まゆみ	オノサダコ	小野美代子	表山千春	加々谷玲子	垣田恒子
加藤淑子	金谷眞木子	河島瑛子	川端習太郎	河邨宣子	川本悦子	木村清順	熊本寛見
倉岡修子	今裕子	近藤崇	近藤光子	西條雅穂子	斎藤晋吾	齊藤千代	齊藤みちみ
齋藤淑子	榊原綾子	坂尻康平	坂本慶子	佐藤郁夫	佐藤はるみ	佐藤真理	塩澤正樹
繁富恭子	司馬政一	島田宏子	白石敬子	杉本純子	鈴木喬	鈴木敏明	鈴木有子
鈴木陽子	須田和子	鷲見武	高橋来	高橋実規子	竹津伊織	竹津香織	竹津香苗
田中薫	丹野美佐江	天日彰子	天日一光	徳永純子	徳永隆史	徳永洋	中島智栄子
中野敏仁	鍋田多美子	根本常子	野上まさ子	野澤千恵子	野呂洋子	花井美恵子	樋口淑子
廣田聰	廣田美貴子	福田実暉代	藤田正一	藤田澄江	船橋利実	星野慶子	牧原和美
松川早苗	(株)宮部	宮本和弘	八木幸三	山上智恵子	山中幸光	山中三知	横路由美子
四ツ柳奈緒	若月香織	若月公子	若月富男	他匿名			

カフェサロン「オープニングで会いましょう」募金箱 (2,030 円)

## 募金額 / 月

2017年4月1日～2018年3月31日

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
募金額 443,382 円	38,000	24,000	12,000	44,030	16,000	0	22,000	0	15,800	22,000	0	249,552
募金数 110 件	12	8	3	10	4	0	4	0	5	3	0	61

## “札幌”でPMF・・・言い出しっぺは？

森 口 力 (P1、に引き続き森口氏のコラムです)

北京はダメ、さあ日本でどうする？開催地は？主催は？  
 ゼロから出直しのスタッフは国内の開催地候補選で議論百出。L.Bの、構想を漏れ聞いた沖縄、広島、京都からのお誘いもありましたが、そんな折、私は半ば頭ごなしで札幌市を一番に推薦しました。

私事になりますが、明治37年生まれ父は関西からクラーク先生に憧れ北大予科、旧北海道帝大へ進みました。子供心に父のアルバムや母の思い出話から、いつとは無しに札幌が心に刻まれていたようです。兄の名前も“迪治(みちはる)”で北大恵迪寮の一字を拝借して付けられています。また、私が入社時の最初の上司が『ミュンヘン・サッポロ・ミルウォーキー』の公募特選フレーズの作者で度々



ビールをご馳走になったことでも、札幌は身近な街でした。開催地案もまともな当時イタリアで公演中のL.Bの承諾を得るべく、事務局代表(佐野・小林両氏)がローマへ出向きL.Bを説得。帰国後直ちに札幌市とハード・ネゴに入りますが市の本格的運営によるPMFは第2回目からとなりました。

今年もまた、『PMFを応援する会』にご理解いただき、多くの支援を惜しみなくお寄せくださいました市民の  
 方々、各企業の皆様に心よりお礼と感謝の気持ちを申し上げたいと思います。このたびもこれまでになかった幾つ  
 かの企画が実施されておりますが、各企画の実現までには少なくとも5年以上の歳月を要しております。これから  
 も市民の皆様とPMFの繋がりがより深くなるべく活動してまいります。

20世紀を彩った芸術家・教育家レナード・バーンスタインの想いPMFは来年30回を迎えます。札幌で熟成し  
 た豊穡な響きの数々を皆様と味わえることを楽しみにしております。

当会PMF開催期間中の行事をご報告します。

7/6 『フェローミーティング』

テラスレストラン キタラ (札幌コサートホール内)

PMFの発展と内外の関心を集める活動のありかたを話し  
 合いました。主な出席者はPMF発足時からの大口スポン  
 サー企業担当元役員を始め芸術文化関係有識者など17名。

ミーティング終了後はPMF組織委員会主催『歓迎レセプ  
 ション』に参加し交流を深めました。

7/7 『カフェサロン#27 オープニングで会いましょう』

札幌芸術の森アートホールロビー

市民の皆様、アカデミー生、各関係者の皆様に茶菓のサー  
 ビスを行いました。ご来場いただいた皆様との交流は当会の  
 大きな活力の源です。

7/8 『テーブルオーナー・プログラム』

PMFを応援する市民がアカデミー生をお気に入りの店に  
 招待し、食事を共にしPMFへの関心を深耕することを願ひ  
 行いました。



5組12名の市民の皆様が寿司店、居酒屋など5店舗で交  
 歓会が行われました。

当初参加希望アカデミー生  
 は15名程度を予想していたと  
 ころ60名弱もの応募があり招  
 待枠を32名まで拡大したあ  
 と、やむなく抽選で対応する  
 ことに。お互いの理解が大き  
 く深まる一夜となりました。



7/23 『アカデミー生、小樽バスツアー』

開催期間中、唯一の休日を札幌及びその近郊を散策しなが  
 ら北海道の歴史と風土を訪ねるツアーを昨年より行い今回は  
 小樽市内散策。

参加希望者が60名  
 弱もあり抽選でアカデ  
 ミー生・アーティスト  
 計33名と当会役員・  
 市民計5名で出発。秋  
 野氏所有の小樽円吉山  
 別荘で地物食材を主と



するオーナーの手による料理で歓迎ランチパーティーが開催  
 され、秋野氏以下15名の市民の大歓迎を受けました。

この企画は小樽在住の秋野治  
 郎氏、(株)宮部 宮部光幸氏、  
 (有)小泉建業 小泉美芳氏、ダ  
 イコグループ 紫藤正行氏、  
 札幌市在住の菊池氏・根守氏・  
 伊藤氏・佐藤氏、各氏の篤志に  
 より実現しました。



『PMFチケット贈呈』

PMFに接する機会が少ないと想定される人々にPMFコン  
 サートに招待することでその魅力を体験していただく企画です。

★7/23『PMFホストシティー・オーケストラ演奏会』

札幌市子ども未来局経由、母子家庭親子30名、  
 札幌在住の留学生14名にチケットを贈呈しました。

★7/28『ピクニックコンサート』

学校法人北工学園(北海道上川郡東川町)、  
 語学留学生一行65名に夏の野外コンサートを体験してい  
 ただきました。



## 奮戦記：

事業を計画して実践に携わり終了するまでのハラハラ、ドキドキも喜んでもらった笑顔でそれまでの苦労が報われます。アカデミー生参加事業の募集、受付の様子を少し覗いてみます…。

夕食招待と小樽小旅行受付はPMFボランティア「ハーモニー」の活動拠点でもある楽屋のカウンターを使わせていただきました。「ハーモニー」のご了承で協力に深く感謝いたします。

食事招待は会期初めの実施だったせいか、日本食への期待に目を輝かせてサインアップする姿が印象的でしたし、両企画とも定員の数倍の申し込みで混乱を招くほどでしたので当会の鈴木、近藤両役員と共に厳正なる抽選を行いました。どちらも大幅に増員して対応しましたがウェイティングリストの順番が少し乱れるなど反省点も残しました。最後にアカデミー生の動きに詳しい組織委員会、RA（レジデントアドバイザー）さんのご協力にお礼申し上げます、ありがとうございます。

## カフェサロン#27

### オープニングで会いましょう

2018年7月7日 10:00-12:30

芸術の森アートホール ロビー

恒例になりましたカフェはPMFのオープニング・コンサートが始まる前の数時間、1年に1回だけ開かれます。常連さんもうらっしゃいますが初めてお目にかかる方もたくさん。この日は寒く、最高気温は17℃、暖かい飲み物が喜ばれました。因みに昨年は30℃の暑さで氷を入れた飲み物が人気でした。暑いね！寒いね！の一言から話が広がっていく・・・そんな「オープニングで会いましょう」に是非お立ち寄りください。

## 新事業 テーブルオーナー・プログラム(2018年7月8日)に参加して

山中麻理子(札幌市)

PMF組織委員会を退職して8年、SNSで交流のあるアカデミー生もいますが、“生”のアカデミー生と触れ合う機会は全くなかったため、今回「アカデミー生と夕食を共にする機会があるので通訳をしてもらえないか」というお話をいただき、懐かしさもあってお受けすることにしました。

組織委員会では、主にアカデミー生に関わる業務を担当していたので、様々な思い出があります。パスポートをジーンズと一緒に洗濯してしまったアカデミー生を連れて、入国管理局で再発行の手続きをしたこと。練習でうまくいかず、泣いてしまったアカデミー生と色々な話をしたこと等々、今でも昨日のことのように思い出せます。

今回夕食を共にしたのは、オーストリア、コロンビア、イスラエル、中国、アメリカ/日本出身の5人。2時間というわずかなひとときでしたが、それでも後日、演奏会を聞きに行くと、ステージ上で5人の姿を探してしまいますし、演奏後の笑顔を見ると私まで嬉しくなりました。

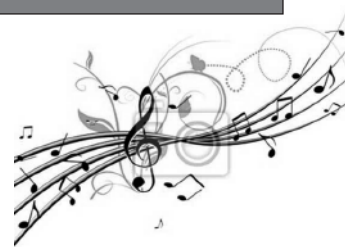


かつてイギリスに留学していた頃、寮生活を通して様々な国の人たちと出会いました。帰国後、テレビでギリシアの経済破綻のニュースを見ると、ギリシアの友人たちの顔が頭に浮かび、動向が気になりました。中東で紛争が起こると、アラブ諸国の友人たちのことを心配しました。中国や韓国との外交関係が悪化すれば、悲しくなりました。

自国ではほんの一瞬しか取り上げられない外国のニュースでも、その国の人を1人でも知っていれば、その顔を思い出し、ニュースがリアルなものになります。1ヶ月間をともに札幌で過ごし、朝から晩まで、切磋琢磨しながらミュージック・メイキングに取り組んだアカデミー生たち。その絆はとて深いことでしょう。そしてその絆の深さの分だけ、他国での出来事がリアルなものになり「何か自分にできることはないか」と考えるようになれば、世界の距離がほんの少し近くなると思います。

このような絆を育む場所が札幌であることは、とても誇らしいことだと思います。そして、ホストシティである札幌の市民とアカデミー生の間にも、より多くの絆が生まれるといいなと願っています。

当会では、若い世代にPMFを浸透させるお手伝いができないかという考えから、チケット贈呈を事業として試みました。



【その1】

市民のある方からいただいた特別寄付を有効に活用し、PMF組織委員会の協力を得て、北大留学生14名、札幌市子ども未来局の協力のもと母子家庭の親子15組を招待することができました。

留学生には札幌に滞在中に夏の風物詩としての教育音楽祭を知ってもらうこと、そしてお母さんと子どもたちには非日常を音楽で楽しんでもらいたい、そして未来の

担い手になってもらいたいという思いで実施。両方とも関係各方面にご協力をいただき、チケットを贈呈することができました。

7月23日PMFホストシティオーケストラ演奏会にキタラ大ホールに来場いただき、札幌とPMFアメリカのアーティストの競演を楽しんでいただきました。

【その2】

PMF最後の土曜日、芸術の森ピクニックコンサート会場に50人余りの留学生が参加しました。彼らは上川郡東川の北工学園で日本語を学んでいる主に東南アジアの留学生です。

学園関係者のご理解のもと、バスを仕立てて2時間余りをかけての参加でした。

当会はこの情報を得て、彼らに少しでも快適にPMFを楽しんでもらいたいと考え、組織委員会をお願いして、公式プログラムと飲料水を提供頂きました。短い時間でしたが、芸術の森の雄大さと、PMFを愛する多くの人々

の様子に感動し、日本滞在の思い出の一つとして心に刻んでくれたことでしょう。



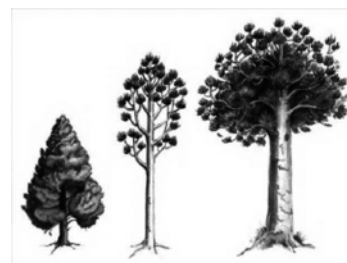
当会としては、今後もPMF聴衆動員についての協力を可能な限り実施したいと考えております。

【編集後記】

明日何が起こるかわからない。一瞬にして日常の暮らしが一変するのが人の暮らしなのだと、ということを今回の北海道を襲った地震関連の災害で実感しました。しかし、明日どうなるかわからない中で、文化は肅々と営まれる人の暮らしの中で継承されなければならないことも改めて感じます。

来年30回を迎えるPMFも市民の文化を愛する心を根に持ちながら少しずつ枝を張り、葉を茂らせ空高く成長することを願うばかりです。

先日訪れたニュージーランドの原始の森で出会ったKauri Treeは一年に0.13mmしか成長しないのだそうです。1300年たった今、森の神様として地上を見下ろしていました。見上げるだけで「なんと雄々しいこと」想像を絶する辛苦に耐えてそこに立っているその木に思わず神々しさを感じました。文化も同じ。大地に根をしっかりと下した本物を期待するところです。(M)



Kauri Tree

「協奏」は皆さまの募金で作られています。  
ご支援に感謝申し上げます。

発行 PMFを応援する会 〒005-0854 札幌市南区常盤4条2丁目17-13「カフェ・ディ・レニー」内  
FAX専用：011-827-5181 ホームページ <http://pmf-support.main.jp/>  
フェイスブック [www.facebook.com/much.love1990pmf.sapporo](http://www.facebook.com/much.love1990pmf.sapporo) (印刷協力 株式会社マルシン)



6

A large group photograph of an orchestra in a concert hall, heavily annotated with colorful handwritten signatures and names in various colors. The signatures are written over the image, covering the musicians and the stage. The names are written in various colors including pink, blue, yellow, and white. Some names are clearly legible, such as "Hana", "YADH", "Miyajima", "Marlene S. Wato", "Avec.", "Miguel", "Shinya", "Stigge", "Marceline", and "Yash". The background shows the orchestra members seated in a semi-circle on a stage with wood paneling.

PMF2018 アカデミー生から感謝の言葉とともにサイン入りの写真が贈られました。また会いましょう！